



**県内景気**

現在の景気 生産活動 個人消費 民間設備投資 住宅投資 公共投資 雇用情勢 3か月後の景気

凡例 晴れ 晴れ一時曇り 曇り 曇り一時雨 雨 前月比 上昇・好転 横ばい 下降・悪化

県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、電気機械や窯業・土石などは高水準が続いているものの、鉄鋼や一般機械、繊維などは引き続き低水準にあり、前月比ではすべての業種で低下し、なかでも一般機械や精密機械が大幅に低下したため、原指数、季節調整済指数はともにマイナスとなった。

需要面では、大型店売上高は飲食料品が前年を上回ったものの、家電機器や衣料品などが伸び悩んだため、全店ベース、既存店ベースともに再び前年を下回った。また、乗用車の新車登録台数は3か月連続で前年を下回っている。一方、軽乗用車の新車販売台数は再びマイナスとなったものの引き続き水準は高く、民間非居住用建築着工床面積のみ民間設備投資も前月に続き前年を下回っているものの、マイナス幅は縮小している。また、新設住宅着工戸数は持家と貸家、一戸建ての分譲住宅が好調に推移したため、全体では2か月ぶりの大幅プラスとなり、公共工事も件数、金額ともに前年を上回った。

このような状況下、雇用情勢を見ると、新規求人数は10か月連続の大幅プラスで、一方、新規求職者数は微増にとどまっているため、新規求人倍率は高水準を維持し、有効求人倍率も0.81倍と久々の0.80倍台となった。また、常用雇用指数は5か月連続のプラス、製造業の所定外労働時間指数も3か月連続のプラスとなり、改善の方向がみられる。

8月に実施した県内企業動向調査によると(P.18の《ズームアップ》をご参照)、自社の業況判断DIは-11で、3四半期連続の上昇となったものの、上昇幅は前回(4-6月期)の-14から3ポイントの上昇にとどまり、改善傾向に足踏み感がみられる。円安による輸出の増加や消費税率の引き

上げを見越した駆け込み需要の発生などにより売上が増加し、景況感は改善したものの、円安による原材料費や燃料光熱費の高騰で仕入れ価格が大幅に上昇する一方で、長引く価格競争の影響で販売価格への転嫁が進まない状況にあるため、全体としては、改善幅は小幅にとどまった。

これらの状況をまとめると、県内景気の現状は、民間設備投資や住宅投資、公共投資といった需要面で前向きな動きが続いているものの、個人消費では全体に伸び悩みの動きがみられ、生産活動でもすべての業種で前月比低下するなど、引き続き前向きな動きはみられるものの、弱含みの状態が続いているとみられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、消費税率引き上げ前の駆け込み需要による増産が住宅関連や民間設備関連をはじめ、自動車や家電製品といった大型耐久消費財関連などに拡大するため、多くの業種に持ち直しの動きがでてくると考えられる。

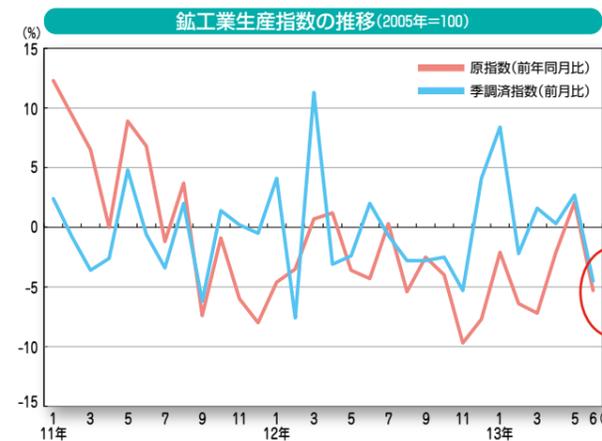
需要面では、個人消費については、上記の駆け込み需要によって乗用車や家電機器などの大型耐久消費財の販売が上向きはじめると考えられるが、家計所得の動向や円安に伴う値上げ、光熱費の上昇による節約志向の動きといった不安材料があるため、力強さに欠けた状態が続くものと思われる。また、民間設備や住宅着工などの投資関連では、上記の駆け込み需要の減退とともに減速感がでてくると考えられる。

したがって、今後の県内景気は、生産活動面では持ち直しの動きに広がりが出てくるとみられるものの、需要面での動きが弱含みにとどまるため、全体的には力強さに欠けた持ち直しの動きが続くものと思われる。

「鉱工業生産指数」は、原指数、季節調整済指数ともにマイナス

2013年6月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2005年=100)の「原指数」が105.7、前年同月比-5.3%と、再び前年を下回り、「季節調整済指数」は98.0、前月比-4.5%で、4か月ぶりのマイナスとなった。この結果、鉱工業全体の季節調整済指数の3か月移動平均値(5月)は100.2、前月比-0.5%で、再びマイナスとなった。

業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「電気機械」や「精密機械」「窯業・土石」などは高水準が続いているものの、「鉄鋼」や「一般機械」「繊維」「その他」などは低い。また、前月と比べると、すべての業種で低下し、なかでも「一般機械」や「精密機械」などが大幅に低下した。

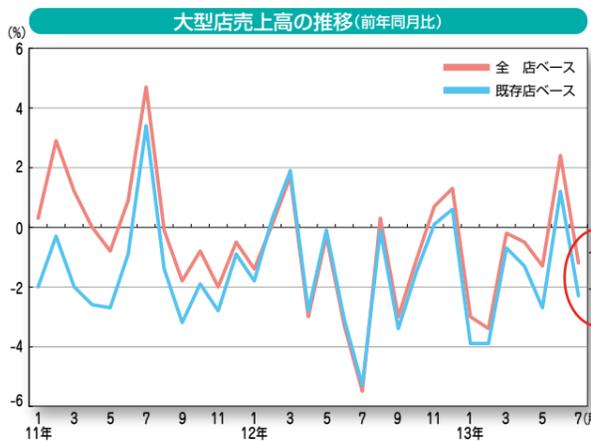


「大型店売上高」は、再びマイナス

7月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は99.7、前年同月比+0.6%、前月比+0.1%となり、前年比では3か月連続のプラスとなっている。「可処分所得(同)」は再び前年を大きく上回り(前年同月比+14.0%)、「家計消費支出(同)」は7か月連続の大幅プラスとなっている(同+18.3%)。なお、「毎月勤労統計調査」における6月の「名目現金給与総額(事業所規模30人以上、2010年=100)」は147.0、同+1.3%で、前月に続き前年を上回っている。

このような所得・消費環境のなか、7月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は94店舗)」は前年同月比-1.2%で再び前年を下回った。品目別で見ると、「飲食料品」は前月に続きプラスとなったものの(同+1.3%)、「家電機器」(同-21.6%)と「衣料品」(同-9.8%)が大幅のマイナスとなり、「身の回り品」(同-6.7%)や「家庭用品」(同-3.1%)も再び前年を下回った。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高もマイナスとなった(同-2.3%)。

7月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「小型乗用車(5ナンバー車)」が3か月連続の大幅マイナスとなっているのに加え(1,485台、前年同月比-24.3%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」も前年を下回ったため(1,697台、同-8.0%)、2車種合計では3か月連続の大幅マイナスとなっている(3,182台、同-16.4%)。「軽乗用車」は再びマイナスとなったものの、水準は高い(2,340台、同-0.6%)。



「常用雇用指数」は、5か月連続のプラス

7月の「新規求人数(パートを含む)」は8,142人(前年同月比+15.3%)で、10か月連続の大幅プラスとなり、一方、「新規求職者数(同)」は6,488人(同+0.9%)で、微増にとどまっている。この結果、「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は前月比+0.01ポイントの1.25倍で、「有効求人倍率(同)」は0.81倍となり、4か月連続で前月を上回り(同+0.02ポイント)、久々の0.80倍台となった。

また、6月の「常用雇用指数(事業所規模30人以上、2010年=100)」は101.3、同+0.3%で、5か月連続のプラスとなっている。また、「製造業の所定外労働時間指数(同)」は115.6、同+3.3%で、3か月連続で前年を上回っている。今後の動向が注目される。

